

「校内研修プログラム」の活用事例
～効果的な支援方法で指導するための校内研修～

【活用するシート】
Ⅰ－２ 実態把握、
支援方法の検討

研修時間
45分間

主な内容		
○ 効果的な「実態把握や支援方法」について交流・協議し、発達障がいのある子どものよさを伸ばす支援の方法を具体化する研修		
手 順		
準 備	・「Ⅰ－２ 実態把握、支援方法の検討」のシート	
タイム テー ブル	5分	1 研修のねらいの確認 ・発達障がいのある子どもへの効果的な「実態把握や支援方法」について考える。
	5分	2 研修方法の説明 ・3～5人グループで協議を行う。
	3分	3 シートを活用した演習 ① シートへ記入（個人） ・グループで子ども1人を想定し、各項目の内容について、個人で記入する。 ・項目に○がついた中で困り感が低いものを選択し、同じ物を選択した人同士で小グループをつくる。 例）「聞く・話す・読む」グループ、「計算する」グループ、「推論する」グループ、「注意集中」グループなど
	15分	② グループ協議 ・各項目についての各自の取組を基に、よさを伸ばす観点から「効果的な支援方法」を付箋に書き出し、分類、整理する。 ※3～5人のグループで交流・協議する。
	10分	③ 全体交流 ・グループ協議の内容を交流する。
	3分	④ 今後の方向性の確認 ・明日から取り組むことを具体的に決定する（個人）。
4分		4 まとめ・振り返り
事後の取組		○ 取り組んだ実践について短いスパンで検証する。 ○ 次に「Ⅱ－1 個別の指導計画の作成」と関連させて取り組む。

研修シート（試案）
Ⅰ－２ 実態把握、支援方法の検討

◎ ねらい
実態把握や支援方法を検討し、指導や支援の留意点を考える。

1 実態把握
この項目や内容を参考に、気になる子どもの実態把握をする。

項目	内 容	該当する場合は○
長所		
がんばろうとしていること		
聞く	全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい	
話す	話しているうちに内容がそれることが多い	
読む	文字は読めても単語や文として読むことが難しい	
書く	板書を書き写すのに時間がかかることが多い 細かい部分を書き間違えたりすることが多い	
計算する	計算するのに時間がかかることが多い 答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くことが難しい	
推論する	図形を描くことが難しい 文章題を解くことが難しい	
注意集中	気が散ることが多い 最後まで課題に取り組むことが難しい	
多動性	じっと座っていられずに立ち歩くことが多い	
衝動性	質問を最後まで聞かずに答えてしまうことが多い	
人とかかわり	相手の感情や立場を理解することが難しい	
コミュニケーション	自分がわからない状況や困っていることを相手に伝えることが難しい	
興味の範囲	興味・関心のある対象が限られ、特定のものへのこだわりが強い	
特異な行動	身体の動きのぎこちなさや手指の不器用さが目立つ	

（参考 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に関する調査」の項目）

2 支援方法の検討
上の表の項目を踏まえ、支援の方法について検討する。
※ ポイント～当該の子どもにとって、最も困難なことのみに目を向けるのではなく、自立してできることをさらに伸ばす観点から、支援の方法を検討する。

3 振り返り（実態把握と支援方法の検討を通して、留意点として考えたこと）
○ どうしても課題ばかりに目が行きやすいが、協議を通して子どものよさやがんばりを考えることの大切さについて、理解することができました。
○ 分類しきれない項目は、場面によってはよさにも困難さにもなり得ることに気が付きました。